

■ 今月のメッセージ(平成 21 年 10 月)

日本銀行富山事務所長
水上 誠一

行楽の秋となりました。景気は今一つですが、立山や庄川などの紅葉を求めて、たくさんの方が富山に来ていただけるとうれしいですね。

さて、先般、首都圏の某大学の学生達が来所し、地域経済などについてお話する機会があったのですが、その中で、「富山では、観光に力を入れていると聞いたが、今回こちらへ来るまで、立山・黒部は知っていても、富山の他のことについては、全く知らなかった。宣伝が不十分なのではないか。」との厳しいご意見を頂きました。

勿論、地元の皆様方のご努力について説明を尽くしましたが、身軽で面白いところならどこへでも行く学生達に、その存在が浸透していないのは事実のようで、大変残念なことです。そこで、富山の観光でちょっと気になる点を「旅の人」の感想として挙げてみました。

①「立山・黒部」の旅行ガイドの最後にその他の地域の説明がある程度で、「富山」を全体的に紹介する旅行ガイドが、大手出版社から発売されていない。

— 大手出版社の編集者やルポライターなどを富山発見ツアーに呼んでみては？

②観光地が、「車」にやさしく、「自転車」「徒歩」に厳しい場所にある。

— パンフレットには「車で何分」の表示だけで、覚悟して行ったが、やはりバスが1日に2本しかなく、駅から「徒歩」1時間半で目的地に到着（せめて貸し自転車があれば）。しかも、郊外に歩道は無きに等しく、「車」には邪魔のようで非常に危険。

③国宝級の建物や芸術的価値が高い工芸品があるのに、地元の方から賛辞を聞いたことがあまりない（転勤者からは、「ここは絶対行った方がいい」とよく推薦を受ける）。

— 折角、国宝昇格や世界遺産指定の運動があっても、地元の方がしっかりと愛し、誰彼構わずお国自慢をするほどの盛り上がりがないければ、中々進展は難しいのではないのでしょうか。

以上御託を並べてみました。私自身は富山の酒の愛好者を増やす努力をしています（笑）。